

真崎浦・大山下・細浦・新川（田エリア） 座談会（2回目まとめ）

1 実施日時・場所

令和6年2月9日（金） 15:00～17:00
村松コミュニティセンター 多目的ホール

2 参加者

真崎浦土地改良区，新川土地改良区及び細浦土地改良組合関係者，東海村農業委員，東海村農地利用最適化推進委員，転作実践委員会関係者，エリアの農業者及び中心的担い手，東海村農業委員，農地利用最適化推進委員，JA職員，東海村職員（事務局）

計28名

【座談会の様子】



3 内容

(1) 情報提供

以下の項目について、資料を用いて情報提供を行った。

①基盤整備について

【基盤整備について】 地域全体の一体的な農地整備 (情報提供1)

簡易な基盤整備

項目	内容
農道	農道整備、農道拡幅、農道改良、農道新設、農道修繕、農道維持管理
水路	水路整備、水路拡幅、水路改良、水路新設、水路修繕、水路維持管理
農家集積地	農家集積地整備、農家集積地拡幅、農家集積地改良、農家集積地新設、農家集積地修繕、農家集積地維持管理
農家集積地外	農家集積地外整備、農家集積地外拡幅、農家集積地外改良、農家集積地外新設、農家集積地外修繕、農家集積地外維持管理
農家集積地内	農家集積地内整備、農家集積地内拡幅、農家集積地内改良、農家集積地内新設、農家集積地内修繕、農家集積地内維持管理
農家集積地外	農家集積地外整備、農家集積地外拡幅、農家集積地外改良、農家集積地外新設、農家集積地外修繕、農家集積地外維持管理

地権者・耕作者の負担が比較的少ないことがメリットだが、着手までの期間が長く、条件も多い。

②中間管理機構・eMAFFナビについて

【中間管理機構・eMAFF農地ナビについて】 (情報提供2)

出し手 (農地中間管理機構) / 受け手 (農業者)

農地中間管理機構のしくみ

- 出し手: 農地中間管理機構 (農地バンク)
- 受け手: 農業者 (農地バンク)

農地中間管理機構の役割

- 農地の確保・整備
- 農地の貸付・管理
- 農地の売却・譲渡

③水田の活用について

【水田活用について】 (情報提供3)

水田の活用

- 水田の活用 (水田の活用)
- 水田の活用 (水田の活用)

水田の活用 (水田の活用)

- 水田の活用 (水田の活用)
- 水田の活用 (水田の活用)

④担い手への支援について

【担い手への支援について】 (情報提供4)

東海村で農業を始めてみませんか?

東海村農業支援センター

東海村農業支援センター (情報提供4)

- 東海村農業支援センター (情報提供4)
- 東海村農業支援センター (情報提供4)

⑤有機農業・スマート農業について

【有機農業について】 (情報提供5)

有機農業の定義

- 有機農業の定義 (情報提供5)
- 有機農業の定義 (情報提供5)

有機農業の推進

- 有機農業の推進 (情報提供5)
- 有機農業の推進 (情報提供5)

【スマート農業推進支援事業】 (情報提供6)

スマート農業推進支援事業

- スマート農業推進支援事業 (情報提供6)
- スマート農業推進支援事業 (情報提供6)

⑥農研機構からの情報提供



東海環一田エリア
令和5年度第2回「座談会」
2024/1/23(火)

第2回座談会に向けて ～アイデアのヒントを探る～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究部門
上級研究員 唐崎 卓也 (KARASAKI Takuya)
Email : karasa@affrc.go.jp

※ 農研機構（のうけんきこう）は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションチーム（連絡）です。

NARO

(2) 1回目の座談会の意見を受けた地域計画（案）について
地域計画（案）についてグループごとに意見交換を行った。

参考様式第5-2号

地域計画(案)

策定年月日	令和7年3月〇日
更新年月日	令和〇年〇月〇日 (第〇回)
目標年度	令和17年度
市町村名 (市町村コード)	東海村 08341
地域名 (地域内農業集落名)	東海村全域 (石神村・村松村)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況(※R3年度実質化された人・農地プランの数値)

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	896 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	611 ha
② 田の面積	416 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	480 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	207.3 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	150 ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題(案)

<p>・農地所有者及び耕作者の高齢化が進む中、農業後継者の確保及び継続的な農地管理が課題である。</p> <p>・持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、農地の集約・集積に必要な集团的農地を確保していく必要がある。</p> <p>・新規就農者を確保・育成しつつ、地域全体で農地を利用していくための継続的な仕組み構築が必要である。</p> <p>・村内農業者の情報不足や農業関係者同士のネットワークが希薄である。</p> <p>以下、田と畑の課題の特記事項を記載する。</p> <p>【田】</p> <p>・一部の農地の質や形状が悪く、用排水施設の老朽化等の課題に加え、農地の集約も遅れる等、作業効率が悪いことから担い手も減っている。</p> <p>・後継者がいないことから休耕地が増えている地域がある。</p> <p>・田を取り巻く関係者は、特に高齢化が進んでおり、農業用施設の維持管理(地域の共同活動)活動の継続が難しくなっている。</p> <p>・農業用機械の更新にかかる費用的な負担から離農する方もおり、経営所得の安定が課題である。</p> <p>【畑】</p> <p>・畑を耕作する人や後継者はある程度確保されているが、地権者との関係性等も含め、長く土地を賃借し、耕作続けられるかの課題があり、安定的な農業経営への不安を抱えている担い手が多い。</p> <p>・畑を賃したい人、借りたい人の情報が少ないことから、土地の賃借に課題がある。</p> <p>・農業を始める際や拡大する際に技術を教えてくれる人がいない。</p>

(3) 地域における農業の将来の在り方(案)

定期的な座談会や意見交換会を実施することや情報共有を図り、地域の関係者や農業者同士のネットワークを強化し、スムーズな農地の貸し借りや集積、集約に繋げていく。
また、農地ナビ (<https://map.maff.go.jp/>)を活用した情報提供を充実させていく。

【田】
・経営所得の安定を目指し、主食用米の他に地域で取り組める作物等【△△△】を導入する。
・地域での意見や実情、担い手の意向等がまとまった段階で、持続可能な農業経営が行えるよう汎用性が高い基盤整備や環境整備等を行い、生産効率を高めることで、担い手の確保や耕作放棄地の拡大防止を図る。

【畑】
・若い農業者や拡大意向のある農業者への農作業研修会の定期的な開催。
・耕作規模や作物ごとにエリアを分けることにより、効率的な農地の活用を図る。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標(案)

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針
中間管理機構への貸し付けを進めつつ、担い手への農地の集積・集約化を進めることを基本とし、担い手の農作業に支障がない範囲で農地利用を進める。

(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	30 %	将来の目標とする集積率	66 %
--------	------	-------------	------

(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標
担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農業委員会と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。

★ 3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置(案)

(1)農用地の集積・集団化の取組
・担い手を中心に集積・集約化を進める。
・現状の経営規模を維持したい担い手がいる地域では、担い手の意向を尊重し、できる範囲で集積・集約化を進める。
＜柳沢・宮下-田エリア＞
・基盤整備を前提として担い手Aさん、担い手Bさん中心に集積・集約を進める。
＜真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア＞
○○○○○○○○○○○○○○

(2)農地中間管理機構の活用方法
・農地の賃借については、農地中間管理機構を通じて行っていく。
＜真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア＞
○○○○○○○○○○○○○○

(3)基盤整備事業への取組
・地域ごとに基盤整備に向けた必要な措置を行っていく。
＜柳沢・宮下-田エリア＞
・基盤整備事業取組みに向けた基礎調査を行う。
・基盤整備を検討する。
＜真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア＞
○○○○○○○○○○○○○○

(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・地域内外から多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、村及びJA等と連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
・住民の農業体験などを通して、農業に関する理解や知識を深める機会の創設をする。
・若い農業者や拡大意向のある農業者への技術支援体制の整備をする。
・農地ナビ (<https://map.maff.go.jp/>)を活用した農地情報の提供の充実化を図る。
＜真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア＞
○○○○○○○○○○○○○○

(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組
＜真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア＞
○○○○○○○○○○○○○○

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組内容】
 <真崎浦・大山下・細浦・新川-田エリア>
 ○○○○○○○○○○○○○○

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	0経営体		0 ha	0 ha		0 ha	0 ha		

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

※地図は現状図



<地域計画（案）、目標地図（案）に対する参加者の意見>

地域計画（案）について

（話し合いからの意見）

- ・担い手をまず確保して、実施できる計画を検討していくことが必要。
- ・担い手がいなければ基盤整備は意味がない。
- ・基盤整備について、このエリアは用排水路の修理が必須となってくる。また、クロの管理が難しいので、クロを撤去して圃場を拡大するような基盤整備が必要。
- ・限られた担い手で耕作していくには限界があるので、会社を退職した方など幅広い担い手の確保が必要。
- ・農地の集積・集約化については、メインの担い手を4名ほど決めて、世代交代ができるようにしていくのが良い。
- ・集約化を進めるのと合わせて、新しい担い手の発掘が必要。
- ・土地は持っていないが、定年後農業をやりたいという人が一定数いるので、そのような方々の発掘が必要。
- ・中間管理機構の活用については、機能していない部分が多く、担い手などを自分で探さないといけないのが現状である。改善する点はたくさんある。
- ・中間管理機構の活用を地権者に案内しても、作付け意向がない場合も多い。その方々の意識の改革が必要。
- ・このエリアは法人がおらず、個人が大きく耕作している地域なので、個人の方とうまく連携を取りながら地域農業を守ってけると良い。
- ・40～50代の比較的若い世代に担ってってもらいたい。このエリアには既に2名ほどいるので、その方々を中心に進めていけると良い。
- ・圃場が小さいとなかなか貸し出せないで、3反歩以上をまとめた形での貸し付けをできないか中間管理機構との連携が必要。
- ・区画整理と合わせて用排水路の整備を進める必要がある。

（アンケートからの意見）

- ・担い手を確実に定めて、計画の立て直しを図る。
- ・認定農業者の拡充、担い手不足の解消。
- ・農業をする人の確保が一番大事である。
- ・主催者側の説明等と聞く側の意識にズレがあるのでは。
- ・テーマに対する話し合いの時間のみなく、なんとなく現状の不満が出たような気がする。将来に向けた話ができるまではいかなかったかなと思う。
- ・今後5年、10年の計画、目標を進めるためには金の問題、人の問題、いかに魅力を感じさせるか。行政（特に国）の政策と現実が大きくかけ離れてしまうのでは。問題点はものすごくあると思う。
- ・次世代の人を確保することが重要。
- ・担い手が決まっていない中での目標地図作成は難しい。何か基準等が示せれば考えやすくなると思う。

（3）その他

○座談会参加者の現在の耕作状況、今後の耕作意向、後継者の有無等についての簡単なアンケートを行った。

耕作規模を減らしていく・・・7人

後継者と呼べる人がいる・・・0人

このエリアで耕作している・・・14人

1ha以上耕作している・・・3人